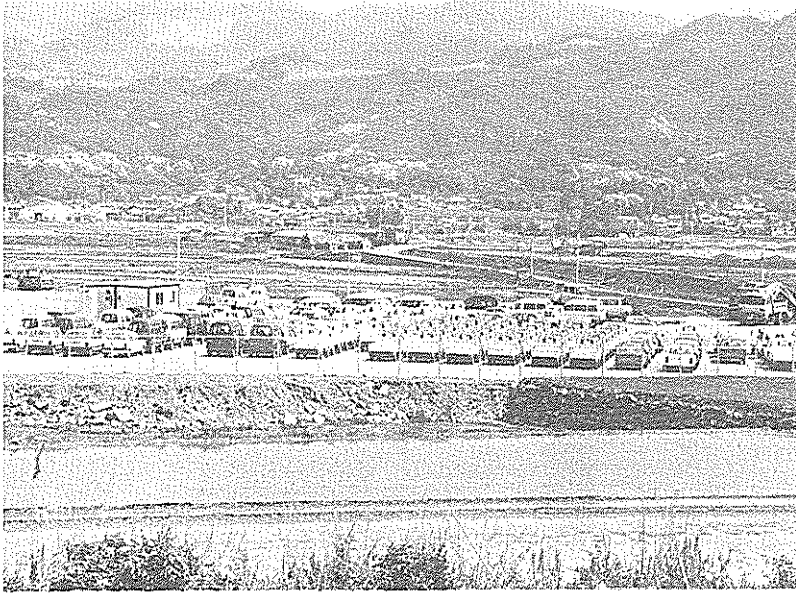


比江山に車両中継基地

年二億円の金利、一部軽減



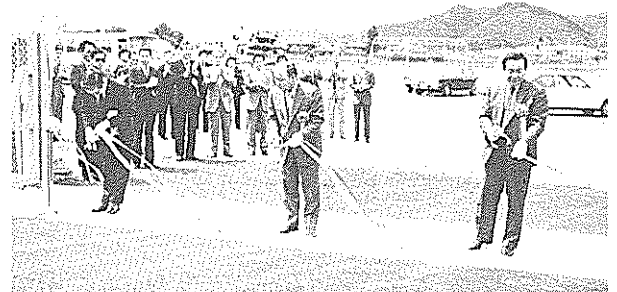
比江山の市有地にできた、富士重工の車両輸送中継基地

財政再建のために、早い処分が望まれている比江山。このほどその残地の一部で賃貸借契約が結ばれ、富士重工の車両輸送中継基地が建設されました。これにより、土地開発公社への借金の金利負担が少し軽減されたこととなります。

現在、土地開発公社への未払い金は二十一億円。その金利だけでも、年二億円にのぼっています。この借金の約半分を比江山の市有地が占めており、財政再建のためにも早い処分が望まれています。過去、歴史民俗資料館や中小企業大学の誘致などが候補に挙がったものの、実現にはなりません。

ところが今年に入り、残地の一部を賃貸借で、車両中継基地を建設する話が持ち上がりました。そして、「公有地処分に関する審議

会」の審議も経て、年二億円の金利の軽減になればということになり、誘致が決まったものです。契約内容は、比江山南の市有地一万一千平方メートルを月額百二十万円で賃貸するもので、契約は一年更新。二月二十九日、市役所応接室で、富士重工の輸送元請け会社である大三海運株式会社（近藤敏明社長と市土地開発公社理事長、小笠原市長）の間で、土地賃貸借契約が結ばれました。そして三月から、整地、フェンスの取り付け工事が進められ、四



吉本助役らがテープカット（4月18日、開所式で）